



## 特集 令和5年度事業計画(抜粋)



「春祭りレク～3月15日にちなんで」  
大島恵の園

### トピック 多くの若い人たちは他者への 手助けをしたいと思っている

武蔵野会とSOCIAL WORKERS LAB (福祉職の採用や福祉に関わる人を増やすためのプロジェクトを手掛ける団体)の合同企画で、昨年8月から大学や学部が異なる未だ福祉の外側にいる学生13人で「ふくしデザインゼミ」がスタートしました。武蔵野会に関わる18人に取材し、デザイナーや編集者から指導を受けながら、今年3月に「武蔵野会に関わる人図鑑」を完成させました。取材は都内だけでなく、大島や御殿場の施設や関係企業にも及び、多くの時間を費やした編集会議の過程を通して学生がそれぞれ学んだこと、感じたことをエッセイにまとめています。今年1月時のまとめには「デザインや編集を通じて自分を知り、他人を知る」という見出しがあり、「人に出会い、取材し、執筆し、編集し、デザインする」という作業は、誰かに『出会い直す』体験であり、武蔵野会の理念『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ』に共鳴する」とあり、その感性に感動しました。

人口減少が予想より早く進む日本において、福祉は職員の確保が継続する喫緊の課題です。地域共生社会の実現で補うにしても、若い多くの人たちが、福祉を特別なことではなく日常的に感じる必要があります。内閣官房孤立孤独対策担当室が令和4年に実施した「人々のつながりに関する基礎調査」の結果概要が今年3月に示されました。アンケート内容も含め81ページに亘るため、詳細はお読みいただくしかありませんが、「孤独感がしばしばある・常にある」が一番多いのは20～39歳の世代で、「UCLA孤独感尺度」に基づけば「時々ある」も含めると50%を優に超えていました。その数字に少し心配しましたが、嬉しい結果もありました。「他者の手助けをしようと思うか」という設問では「しようと思う」が、男女の平均で16～19歳が68%、20～29歳が64%と回答していて、全体平均の51%を大きく上回っていました。冒頭で「ふくしデザインゼミ」に参加した学生は、福祉の外側にいたと書きましたが、卒業した学生がこの4月に当法人の正職員になりました。福祉に触れる様々な機会を多くすることで、若い人たちが抱えているその思いを何らかの形で福祉に繋がるようにしていきたいと思っています。

# 令和5年度 社会福祉法人武蔵野会 事業計画書(概要)

## 事業方針

### 虐待事案、不祥事を踏まえた 基本方針

法人内で起こった虐待事案という不祥事の発覚は、武蔵野会を利用して頂く方々、ご家族、福祉関係者、行政の皆様から、武蔵野会と職員への信頼を揺るがす大きな出来事となった。何よりも「丁寧な支援」を大切にしてきた法人として、再び皆様に信頼していただき、安心、安全に利用していただくために、法人全体で真摯に組織改善への取り組みを行った。各施設の見直しと点検を実施し、不祥事の原因究明と改善については、本部対策委員会をはじめ法人全施設の施設長、管理職、役職が対策委員となり対応した。法人で設置した再発防止検討第三者委員会では、弁護士である委員長を中心に、各委員が施設の視察から6回にわたる話し合いを行い、2月に法人へ報告書が提出された。原因分析から、法人、施設が現在まで取り組んできた改善経過の評価、そして、再発を防ぐための対策が具体的に示されており、報告書を真摯に受け止め、組織として再発を防止するための取り組みを続けていく

ことを法人全体で確認した。なお、この報告書は、行政にも提出し、行政への改善報告については終了しているが大島の運営については、職員採用困難、今後の施設移転などの大きな課題があるため、今後も行政とは定期的な運営相談を継続していくこととした。

### 法人組織改善の取り組み

昨年開始した法人の組織改善では、外部コンサルタントの支援を受けながら、法人役員による法人経営革新ミーティングを継続した。本部機能の改善では、役員による検討ミーティング、本部職員による改善ミーティング、事務職員による組織改善ミーティングなど、コンサルタントとともに多角的に改善内容の洗い出しを行い、今年度の具体的な改善計画につないだ。そのほか、施設長のあるべき姿を検討した施設長ロールプロファイルなど、多面的に組織の安定運営の基盤づくりの取り組みを計画的に実施した。今年度は、検討の結果作成した中長期の課題を、下記の4つの重点施策にまとめ、役員を中心に、管理職、役職の担当者を決めて実施計画を進めていく。計画の進捗管理は法人運営会議で実施する。全体の取り組みの中心は、昨年からの

継続している現場力の強化を最重要とした、福祉の原点に回帰した、利用者への質の高い安定した支援の継続を何よりも一番の目標として法人運営を進めていく。合わせて、法人の生き残りをかけて、採用と人材育成、建替え等利用者の生活の質を守るための資金計画の実施も同様に重点施策とした。以下に中長期的な重点施策と項目と、今年度の重点施策の計画、全体としての計画を示す。

## 中長期的重点施策と 事業計画

### 重点施策1 本部改革

#### ① 本部機能の見直し

業務効率化  
ア. 組織ガバナンスの再構築(執行理事)

虐待事案の改善にあたり、法人役員は経営革新ミーティングを実施し、今後の法人のあるべき姿について話し合いを重ねてきた。具体的には、ここで提示している「中長期的重点施策」が成果物となっており、今後、各役割を担う各執行理事が計画を遂行し、法人本部で進捗確認を行っていく。特に、遂行責任を明確にし、進捗管理を徹底して進め、組織ガバナンスを強化していく。

イ. 法人本部事務の業務効率化と適切な人員配置  
本部機能の改善では、採用システ

ム. 構築、人事課の検討、法人各施設の建物整備管理の担当化、決裁の電子化、人事大臣の運用、法人予算の明確化、各施設の配置基準の明確化、グループウェア(Garoon(ガロン))を活用した法人内情報共有などの運用等、多岐にわたる改善項目が示された。改善を進め組織ガバナンスを適切に構築するためには、本部業務を行う人員が不足しており、現実的には対応できない状況だった。このため、業務改善の優先順位を明確化し具体的な人員配置を行うこととした。

ウ. 規程、法律改正への対応(子育ても含む)  
法人管理・経理規程の簡略化による事務の省力化と法律改正に準じた対応の徹底、子育てにやさしい法人を目指した取り組み。

エ. 施設 事務オペレーション  
本部機能改善PJから各施設の事務業務(総務、経理、財務、人事等)の法人集中管理化の方向性が示されたのを受け、今後の各施設の事務業務の計画的な移管と統合を進める。

### ② 財務(資金確保)

ア. 長期資金計画

今後の各施設の長期収入と支出予測、法人が予定する施設移転(大島)や建替え(八王子等)、施設修繕等を基にした長期資金計画を立てる。

イ. 資金確保

各施設からの繰入金見直し  
本部に繰り入れる収支差額は、法人が事務機能を集中管理し把握する予定。区立指定管理施設の繰入額は、上限額なども含め、今後継続していくかを精査し本部が区と交渉する。

事業収入増計画

各施設で加算制度の活用、基準配置の見直し等、収入強化を図り、事業収入の増加を計画する。

寄付金獲得、ファンドレイジング

外部コンサルタントと連携し、個人や民間からの寄付金獲得を目指し、大島恵の園の建替え資金獲得を本格化する。また、企業が税金を納める代わりに社会福祉法人に寄付ができる制度を活用した説明書を持参する企業訪問を始めており、今後も継続して実施する。

後援会活動

活動を支えていく仕組みを検討する。遺贈についても、後援会として進めていけないうか検討する。

### ③ 人事(人材採用と配置・定着)

トータル人事制度

新給与制度への移行と対応、人事考課制度の適正運用管理、人事制度の検討。

職員採用の強化

採用のコンサルタントを入れ法人全体で採用システムの構築を図る。現在の採用担当者1名の現状改善(キャリア採用など)、法人人事課の体制も検討する。  
職員紹介採用制度の運用

## むさしの 武蔵野 地域とともに

平成28年の社会福祉法改正で、社会福祉法人に地域での公益的な取り組みの責務が課せられました。各法人各事業所で取り組み始めたところで新型コロナウイルスが猛威を振るい、進めづらい状況が続きました。

先日、感染防止対策をしながら施設運営協議会を数年ぶりに集合形式で開催しました。利用者代表やご家族代表、第三者委員、民生委員、近隣施設職員の方、区所管課の担当者などが一堂に会して運営状況を確認し、今後の事業計画についてご意見を伺うことができました。対面でこそ共有しあえる想いもあり、とても有意義な時間になりました。お話しすることで改めてたくさん関係者とともに歩んでいること、いろいろな角度から施設の状態を確認することの大切さも感じた時間でした。

また、近隣施設の運営協議会にも参加する機会があり、その際には近隣にお住まいの方から、地域の情報を過去に遡って伺うことができました。

まだまだ知らないことは多く、

地域に貢献するには、地域のことをもっと知ることから始めなければならぬと感じました。そして、近隣地域の福祉の拠点となるには住民の方々に寄り添うことが必要だと改めて認識したところです。

大泉町福祉園では介護教室の開催や住民の方々と共にラジオ体操をしています。さらに繋がりを広く深くしていく計画を立てています。繋がりは工夫次第であり、その対象も地域の方々だけでなく商業施設や農業施設、学校、NPO法人など様々考えられ、その効果は無限に拡がると思います。

私は練馬区職員として14年、武蔵野会職員として15年、障害者福祉に従事してきましたが、行政との繋がりが重要だと実感しています。今後の福祉を発展的に進めていくためには、行政の福祉計画を鑑みつつ、近隣地域の課題やニーズを汲み取りながら施設の事業を展開していくことが望まれると思います。社会福祉法人の組織のフレキシビリティ(柔軟性)やアジリティ(敏捷性)を活かした施設運営を考えていきたいと思っています。

練馬区立大泉町福祉園

施設長 酒井 康弘

施設長ロールプロフィール研修を次期施設長、管理職候補職員にも計画的に受講させて育成する。

③施設サービスプロセスの標準化

サービス向上委員会が各施設の運営基準を網羅した施設運営ハンドブックを作成し、施設運営のための基本的な業務を標準化して共通した運営ができるようにする。

④人材育成（学習と成長の組織へ）

（研修委員会）

・研修カリキュラムの計画的実施  
・既存の研修カリキュラム、システム、人材育成方法等の見直し、今後の研修オペレーションの検討  
・支援介護の基本ブック改定  
・理念研修の資料として支援介護の基本ブックを活用してきたが、記述してある理念、行動規範、倫理綱領を読むだけでは必ずしも実践に繋がらない。実践のための組織やケース検討などの方法を加え改定する。それまでは、ダイアログ研修や実践報告などを継続し武蔵野会職員のあるべき姿の明確化を徹底する。

一昨年から法人全体で実施しているコンプライアンス診断と改善は、職員への「心理的安定」と「エンゲージメント」をコンセプトとして実施しており、利用者、家族が安全で安心して利用できる法人であり、職員も安全で安心して働ける職場であることを目標とする。この仕組みをコンプライアンス委員会が構築していく。

②虐待防止の取り組み（虐待防止委員会）

虐待事案改善の取り組みから、今までの組織的取り組みを見直し、新たに「武蔵野会虐待防止委員会規程」を定めた。法人内の虐待防止は、委員会の取り組みを中心として体系化した組織的予防と再発防止を続けていく。

③災害への取り組み（防災委員会）

いつ起こるか分からない地震や火災に加え、水害にも備えが必要である。防災委員会の活動が定着、充実してきたため、法人全体の防災訓練や安否確認をさらに充実させる。法人のBCPは、災害だけでなく感染症など、より充実させ、各施設の差が無いようにする。防災委員会通信も意識の喚起に効果的であり継続する。法人内の防災対策を強化しながら、今後も東京都や日本福祉大学の防災ネットワークと連携し、様々な災害に備える体制を継続する。

④地域福祉の推進

①法人

法人として地域福祉方針の提示と地域公益推進委員会の運営を通し、武蔵野会における地域福祉の取り組みの共有と他地域への展開を図る。事業、支援、アートなどの連携も検討する。

福祉教育、人材育成

新規事業の量的整備

・日本福祉大学との連携強化  
・障害者・高齢者の累犯障害者の地域生活定着支援事業の各地区での実施  
・生活困窮者への地域生活定着支援事業の実施

②施設

各施設に担当者を配置。地域福祉については、各地域の中での社会的な課題、ニーズを把握して、状況の中で広げていくことを求められており、各地区、施設ごとで具体的な計画を立案して実施する。

③その他

・「みんなの力」の支援  
福祉サービス第三者評価評価者（施設長）、身上監護（社会福祉士）、武蔵野会セミナー  
毎年、テーマを決めて内外を対象に情報発信を行う。担当は、各地区が2年ごとのローテーションで担当する。

①人事計画

管理職への積極的登用  
今年度は、係長職から4人を課長に昇任させ施設長待遇とした。今後も、係長職の課長昇任、課長の施設長昇任が順調に進むよう、新たに作成した施設長ロールプロフィールを利用した施設長、管理職の積極的な人材登用を進める。

②新しい人事考課制度と給与制度の導入

前年度から導入した新任採用職員と中途採用職員の新給与表に続き、今年度から現在の職員への新考課制度と給与表を導入する。年齢給を廃止して職能給に統合し、昇任基準を明確にする。

③理事会・評議員会等計画

理事会、評議員会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、会場での出席とオンライン出席のハイブリット方式で実施しており、コロナ禍の中で生まれた新しい様子を今後も積極的に取り入れ、参加しやすい会議運営を提案していく。今年度の6月の定時評議員会では決算、充実残高の確認、理事の任期満了に伴う選任を議題とする。決算は、会計監査人から、今までの監査から得た各拠点の課題を把握した指摘がされており、各拠点は指摘を改善することで、

重点施策3 法人の危機管理

③危機管理

①コンプライアンス体制整備（コンプライアンス委員会）

法人会計全般におけるリスクの低減を進める。監査結果は監査報告書として監事と理事長が受け、理事会を経て、評議員会に諮る。評議員会は決算時に年1回の開催が義務づけられているが、決算には事業計画の確認が必要との評議員の意見より、今年度も武蔵野会は6月と3月の2回、評議員会を実施する。

理事長、本部長、執行理事による業務執行体制は、昨年から法人の組織改善を重点施策として執行理事を中心に具体的な改善の取り組みを開始したが、今年度はより具体的な年度計画をもとに実施し、理事会、評議員会で業務報告を行う。各担当業務（法人PJ、委員会）の進捗は、毎月実施する執行理事会議で、執行理事の取り組みは、理事会、評議員会で定時報告をする。

会計監査人による監査以外にも、顧問税理士と本部長が各施設に訪問し、施設の会計内容を把握し業務内容の確認とアドバイスをしているが、コロナ禍への対応のため、オンライン等も取り入れて実施する。今年度も、理事会4回、評議員会2回を実施し、昨年度実施できなかった運営協議会（利用者、家族、地域の意見を法人運営に反映させる）の実施も検討する。

④サービスの質の向上（信頼と安心のサービス）

①理念に基づいた支援体制の確立  
②人権研修の継続。虐待防止対策の継

続

③利用者の高齢化、重度化、重複化への対応

④サービスの標準化

⑤業務評価と業務改善

⑥リスクマネジメント体制の強化

\*日常的防災訓練を法人全体で同時期に行い本部の情報収集と指示が出来るようにする。日本福祉大学と連携し、備品の確保など具体的な動きに繋げる。

⑦情報提供と開示・保護

⑧利用者満足とQOLの向上

⑨利用者生活環境の整備

\*大島恵の園の移転、練馬福祉園や八王子生活実習所の建替えのためのワーキンググループによる事業計画の作成とそれに基づくコンサルタントによる基本設計と実施設計、施工業者の入札と決定。その他、施設の計画的修繕。

⑤日本福祉大学の提携社会福祉法人と連携した、経営、サービスなどの質的向上の取り組み

職員採用計画と

人事配置計画

①職員採用計画

コロナ禍の中、担当職員1名で採用説明会、就職フェア参加をオンラインに切り替えて丁寧な対応を行ってきた。福祉職を希望する学生、一般の方が減少しており、根本的な採

重点施策4 地域福祉

④地域福祉の推進

①法人

法人として地域福祉方針の提示と地域公益推進委員会の運営を通し、武蔵野会における地域福祉の取り組みの共有と他地域への展開を図る。事業、支援、アートなどの連携も検討する。

福祉教育、人材育成

新規事業の量的整備

・日本福祉大学との連携強化  
・障害者・高齢者の累犯障害者の地域生活定着支援事業の各地区での実施  
・生活困窮者への地域生活定着支援事業の実施

②施設

各施設に担当者を配置。地域福祉については、各地域の中での社会的な課題、ニーズを把握して、状況の中で広げていくことを求められており、各地区、施設ごとで具体的な計画を立案して実施する。

③その他

・「みんなの力」の支援  
福祉サービス第三者評価評価者（施設長）、身上監護（社会福祉士）、武蔵野会セミナー  
毎年、テーマを決めて内外を対象に情報発信を行う。担当は、各地区が2年ごとのローテーションで担当する。

その他の事業計画

①人事計画

管理職への積極的登用  
今年度は、係長職から4人を課長に昇任させ施設長待遇とした。今後も、係長職の課長昇任、課長の施設長昇任が順調に進むよう、新たに作成した施設長ロールプロフィールを利用した施設長、管理職の積極的な人材登用を進める。

②新しい人事考課制度と給与制度の導入

前年度から導入した新任採用職員と中途採用職員の新給与表に続き、今年度から現在の職員への新考課制度と給与表を導入する。年齢給を廃止して職能給に統合し、昇任基準を明確にする。

③理事会・評議員会等計画

理事会、評議員会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、会場での出席とオンライン出席のハイブリット方式で実施しており、コロナ禍の中で生まれた新しい様子を今後も積極的に取り入れ、参加しやすい会議運営を提案していく。今年度の6月の定時評議員会では決算、充実残高の確認、理事の任期満了に伴う選任を議題とする。決算は、会計監査人から、今までの監査から得た各拠点の課題を把握した指摘がされており、各拠点は指摘を改善することで、

②広報計画

①武蔵野会ニュース「春夏秋冬」を以下のように発行する。編集会議は運営会議で行う。発行部数は昨年度同様5500部とする。  
〔春夏秋冬発行計画〕  
189号（春）R5・4・1  
190号（夏）R5・7・1  
191号（秋）R5・10・1  
192号（新年）R6・1・1

②ホームページの更新計画

リニューアルしたHPで、社会福祉法人がどのような活動を行っているかを積極的に広報し、関係機関や利用する方だけではなく、地域や学生にも情報を発信していく。特に、求人ページには力を入れ、積極的に情報発信をしていく。

③法人施設利用者の故人を偲ぶ会を行う

①八王子・上川霊園（武蔵野児童学園）1月  
②御殿場・ぐみ沢共同墓地（さくら学園）6月  
③大島・波浮港共同墓地（大島恵の園、第2大島恵の園）2月

④職員永年勤続表彰式

永年勤続表彰式を行う（開催日時未定）。

その他の計画

①令和6年度新規採用職員への辞令交付式

新任研修（令和6年3月）  
新規採用職員以外の辞令交付は理事長に代わり各施設で施設長が行う。

## ニューズ ラウンジ

### スマートフォン講座 開催(SNSコース)

#### 八王子市

#### 心身障害者福祉センター

知的・精神・肢体不自由障害者の方を対象に、全4回の課程で開催しました。定員を超える6名の方からお申込みいただき、インターネットコミュニケーションアプリ(SNS)を正しく使う方法、その主な種類や使い方を学習しました。2回目からは初回に学んだことを念頭にTwitter・Instagram・LINEの基本的な説明を受けた後、使い方を体験し、写真投稿やコメント入力など更にステップアップした内容にもチャレンジしていただきました。スマートフォン操作に慣れていない受講生もいらつしやいました。講習スタッフの丁寧なサポートで、SNSを楽しまれていました。お一人では操作に不安を感じた方もいらつしやったようですが、講座参加をきっかけに、スマートフォンの利便性、多くの人と繋がることのできる世界観を体感していただけたことと思

います。講座終了後も月に3回実施しているパソコン・タブレット学習会に参加するなど、継続的に学習していくことで、お一人でも操作・活用できる自信を持つていただければと思います。今後も魅力的な講座内容を計画しておりますので、多くの皆様にご参加いただきたいと考えています。



真剣に講義を聞く受講生の皆さん

### 法人総合防災 訓練を終えて

#### 法人防災委員会

法人に防災委員会が発足して5年目になります。この間、各種マニュアルやBCPの整備、日常の建物点検、広報誌の発行、研修等活動を拡大しながら、各施設における防災意識の向上に努めてきました。

その中で昨年度1月26日に法人全施設による防災訓練に取り組みました。新型コロナウイルス感染症拡大もあり、この3年間は集合型

の訓練は出来ていませんが、法人で活用している「セコム」を利用し災害本部との連携強化を図りました。

今回は、停電や通信機器が使えないことを想定し、携帯電話を使って災害本部との送受信訓練を行いました。しかし、委員や職員が皆このような通信機器に精通しているわけはありませんので、使い方に「慣れる」ことから始めています。一昨年はパソコンの利用想定、昨年度は携帯電話の利用想定と、職員にとっては普段目しない利用のため混乱も生じました。実際の災害時に実用的な運用ができるのか、訓練をした分だけ不安が残ります。しかし、委員間ではこれを当たり前の連絡ツールにしておかないと災害時には対応できません。今後も引き続き防災委員会として訓練を行っていくことを確認しました。



照明を落として訓練中



#### 西水元あやめ園

2月3日の節分の日、「鬼は外! 福は内!」と利用者の方々と一緒に豆まきを行いました。元気なかけ声が澄み切った青空に響き、穏やかな陽気と温かな笑顔に包まれ、春の訪れを感じる一時でした。

#### 小平福祉園

3月25日(土)、児童発達支援すけっちでは、卒園式を行いました。感染症対策で参加できない在園児が思いを込めて手伝ってくれた装飾に見送られ、13名のお子さんが新しい道へ旅立っていきま

#### リアン文京

4月から新事業「ダンススクール」がスタート! キッズからシニア、障がい者もみんなで楽しく身体を使って表現していく企画になっています。ダンスを通じて、創造性やカタチにこだわらない多様性も育んでいきます。

#### 八王子市心身障害者福祉センター

2月中旬に福祉映画会を開催しました。視覚障害者の立場で映画を鑑賞していただくために、アイマスクを着用しての開催としました。参加者から様々なご意見をい

### ふくしデザインゼミ 「武蔵野会に関わる 人図鑑をつくらう」

#### 法人本部

ふくしデザインゼミは、福祉やデザイン、執筆や編集に興味を持つ学生たちが武蔵野会を舞台に実践的に福祉を学ぶプログラムとして令和4年8月にスタートしました。福祉と学生、地域を繋ぐ活動をしているソーシャルワーカーズラボと協同で、3月までをプロジェクト期間とし、執筆や編集の講師に福島県いわき市で地域活動や執筆活動を行う小松理慶さん、デザインの講師に東京都代々木でデザイン事務所を営む田中悠介さんを迎えて行いました。学生たちが武蔵野会の職員や利用者、関連する地域の方々に取材をし、文章にまとめ、デザイン、編集をして一冊の図鑑をつくるプロジェクトです。参加した13名の学生は大学や学部も異なり、学年も様々。取材や執筆のみならず、この告知で武蔵野会を初めて知ったという学生がほとんど。最初は「デザインとは? 編集とは? 福祉とは?」といった話し合いから始めました。全員で取材に行き、各自が1名の記事(図鑑)を担当して文章を考え、キャッチコピーや見出しを考

えました。参加した全員がこの取り組みで感じたことや、変わっていく自分に向き合いエッセイやイラストを書きました。最初は「何となく」とか、「言葉に惹かれて」と、受動的に参加した学生もいたようでしたが、取材に出掛け、書いた文章について理慶さんに教わり、学生メンバーで話し合ううちに、自分と向き合い今後の人生をどのように生きていくか見つめ直す学生も出てきました。学生たちが書いたエッセイは、プロジェクトブック「ふくしデザインゼミ」に収まりきらず、取材の様子や話し合いをプロジェクト進行中に投稿していたSNS「Note」にしたためました。また、3月に西八王子駅近くにあるイベントスペースAKITENで約一週間、「ふくしデザインゼミ展」で出来上がったブックのお披露目と共に学生たちの頑張りや苦悩をパネルにして観ていただきました。パネルの設置や、ゼミ展の宣伝、運営も学生たちが行いました。交代でチラシを配り、受付もしました。ふくしデザインゼミ展のオープンフォーラム「ふくしをひらく」では変わりゆく社会の中で、地域にふくしをひらいてゆく実践者のお話を聞かせていただきました。ゼミ展のイベントとして、展示スペースの中央でプロジェクトに参加

協力してくださった方々にもご登壇いただき、トークセッションを行いました。もう一つ、ふくしデザインゼミ体験ツアーと称して、参加者が二人組になり学生が行った取材を模して、お互いを取材しながら地域を歩き、編集会議を経て記事を作るといった企画も行いました。ゼミ展と共に大変好評でした。兎にも角にも13名の学生たちは、この8か月間で、このプロジェクトに沢山の時間を費やし、自分と向き合い、ふくしを通して何かを感じる瞬間を共に過ごした「なにかま」とかけがえのない時間を過ごしました。この取り組みにどんな意味があったのか、それはこれからこの「なにかまたち」がきつと教えてくれることでしょう。



ゼミ展会場でのトークセッション

#### 大泉町福祉園

3月下旬に3年半ぶりの対面による運営協議会を開催。利用者代表は堂々とした面持ちで自分の思いを述べ「わかりやすい!」と出席者から称賛の嵐でした。第三者委員から具体的な助言を頂き、貴重な機会となりました。

#### 世田谷福祉作業所

作業所のCaseで「ガリガリくるくる展」という版画の作品展を開催しました。紙漉きの仕事と版画という表現、利用者と職員の関わり、それらが融合された点と線のすてきな作品を、たくさんの方に見ていただく機会となりました。

#### 光が丘すてつぷ

障害のある人もない人も、参加者全員で楽しむ音楽イベント「すてつぷ音楽会」を、定員制限なしで開催。コロナ前の来場者は60名程度でしたが、今年は88名の来場で賑わいました。長い自粛生活で、皆が集い楽しむことを望んでいたのだと感じさせられました。

#### 千代田区立障害者福祉センター

冬を越したミツバチ達が帰ってきました。障がいがある人もない人も、蜂蜜を中心とした「和の花」がどんと広がって絆が深まり、地域に愛される蜂蜜になれるようにします。

# お知らせコーナー

## 7月

1日(土) ふれあい祭 (大泉町福祉園)  
 15日(土) 音楽祭 (小平福祉園)  
 29日(土) 八王子花火大会 (八王子地区)

## 8月

1~3日 お花茶屋ふるさとまつり出店 (葛飾地区)

## 9月 (ありません)

## 10月

21日(土) 武蔵野会セミナー  
 ※法人60周年は、次年度に延期です  
 ※法人永年勤続者表彰は未定です

この3年間も、新型コロナウイルスの影響で直接お会いして交流することは出来なくなりました。この3年間も、新型コロナウイルスの影響で直接お会いして交流することは出来なくなりました。

# ジブラルタ生命様 とのつながり

## 武蔵野児童学園



が、温かい支援は続けていただいています。今年度はコロナも落ち着き、屋外での活動が出来ることを期待して、防災対策も兼ねたランタンを各部屋に頂きました。



各部屋にランタンを頂きました



毎年のご支援に感謝いたします

また、ジブラルタ生命様の寄付とは別に、交流が始まった当初から中心幹事として携わっていただいた尾崎様のご協力により、MDRT日本会様からも毎年退園する子どもへの自立準備金として多額の寄付を頂いています。今年こそは来園いただいで子どもたちの交流が再開できると良いと思っています。その日を今から心待ちにしています。これからも子どもたちの良き支援者として繋がっていきたく心強いです。今後ともよろしくお願います。

# ショーケース

## 自主生産品紹介

## 新商品

### しあわせのもりあわせ

#### 世田谷福祉作業所

☎03・3414・0141

「しあわせのもりあわせ」では、ホッとされるけど「オッ？」となるお菓子を、毎日丁寧に焼いています。香り爽やかなオレンジャーキ、スイスとフランスのカカオが織りなす濃厚チョコケーキ、シュトレイルの土台のやみつきチーズケーキなど…ご注文お待ちしております。



おいしいお菓子でお待ちしております

### オンライン販売

#### 千代田区立障害者福祉センターえみふる

☎03・3291・0600

今年1月、利用者作品を活用した商品がネット販売されました。ELEPHANT代表松本さんの想いは「既に存在する価値あるものに

付加価値を付けて販売する」です。作品をデザイン化することで付加価値を付け、商品として生まれ変わりました。



商品化されたTシャツ

### ニコンニコン青空販売会

#### 北町福祉作業所

☎03・3326・8001

大規模修繕工事に伴う一時移転先(光が丘第7小学校跡)での活動が1月10日から始まりました。コロナ禍で希薄になった地域の方々との関わりを増やすため新たな試みとして「にこにこ青空販売会」を2月22日に実施しました。今後も定期的に開催し交流を深めていきたいと思えます。



おいしいお菓子を販売中

### 武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する事業所の利用者のためにより良い環境や施設の充実、円滑な運営などを物心両面から支える組織として武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により会の拡大を図り、法人の運営基盤の確立を応援していますのでご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3  
 電話・FAX 042-626-9772